

### Q2-1 学校生活になじめない様子が見られます。どのような配慮が必要ですか。

**A** 帰国・外国人児童生徒の学校生活への不適応の背景には、言葉や習慣の違いによるものが考えられます。まずは、児童生徒にとって「居場所」が確保されることが重要です。自分が受け入れられているという安心感をもてるようにしましょう。

#### 友達と一緒に学校生活を楽しむことができるようにしましょう。

- ・学級の児童生徒に積極的に声かけをして、お互いのコミュニケーションが生まれるようにする。
- ・休み時間に一緒に遊んだり、登下校をしたりする友達を見つけることができるよう、仲間づくりのきっかけをつくる。
- ・学級の児童生徒に、異なる文化をもつ帰国・外国人児童生徒とのよりよいコミュニケーションの取り方について考える機会をもたせ、違いを受け入れられる学級の風土づくりやよりよい人間関係づくりを進める。



不安でいっぱい、慣れるのに時間のかかる子どももいるので、様子を見ながら、場合によってはあまり無理に働きかけ過ぎないという配慮も考えられます。

#### 自己のよさに気付くことができるようにしましょう。

- ・帰国・外国人児童生徒がそれまで生活していた国の文化や言葉などを紹介する機会を積極的に設ける。
- ・学校や教職員、周りの児童生徒や保護者、さらには地域社会が帰国・外国人児童生徒のことを理解し、自分の言語や文化に誇りをもって過ごすことができるようにする。

帰国・外国人児童生徒がそれまで生活していた国での体験を語り、それが本人にとってプラスに働くためには、

●クラスの児童生徒が肯定的に受け止める素地をもっていること。

●帰国・外国人児童生徒が「他の子と異なる」ことをきちんと受け止められることが必要です。

学級担任等が、その子どものそれまで生活していた国を「素晴らしい国」として紹介するなどの働きかけから始めるとよいでしょう。

#### 不適応傾向には丁寧に対応しましょう。

- ・頭痛を訴える、乱暴な態度になる、黙り込む、怒りっぽくなるなど、異文化への不適応傾向が考えられる場合は、じっくり話を聞いたり、よく観察したりする。
- ・保護者やスクールカウンセラー、通訳等との連携を図り、早急に対応する。

## Q2-2 日本の学校のきまりを理解していない場合は、どのように対応をすればよいですか。

**A** まずは学校のきまりについて、帰国・外国人児童生徒及び保護者にその意義を含め十分に説明する必要があります。

指導に当たっては、文化の違いによるものには柔軟な対応が大切ですが、まずは日本の学校のきまりを丁寧に説明し、理解や協力を得ることが大切です。

言葉が通じないからといって曖昧にしてしまうことは、勘違いや誤解の基となるとともに、学級の他の児童生徒に教師への不信感を抱かせる結果になります。

### 【道内の実践】

#### アメ・ガムの指導

保護者と一緒に初登校の時、校長室で子どもがガムをかんでいたのが、その場で学校のきまりを説明したところ、親子ともに理解し、その後の学校生活でアメやガムを食べることはありませんでした。

最初に見逃すと、途中での指導は難しいので、はじめの指導が大切です。

### コラム

#### ヒジャブの着用も人それぞれ

函館大谷短期大学助教 村田 あきの

イスラム教には「ヒジャブ」といって、思春期以降の女性が髪などを隠すために着用するスカーフがあります。私が日本語教師として以前取り出し指導をしていた女子生徒は、イスラム教徒でしたがヒジャブを着けていませんでした。母親や姉たちはみなヒジャブを着けていたのに、家族の女性で着けていないのは彼女だけ。それでも毎日つやつやとした黒髪をしっかりと編み込んで朗らかに登校していました。少し不思議でしたが、ヒジャブを「着けない」ことを選んだのは彼女の意思で、彼女の家族はその選択を尊重したのだそうです。どうしてそのような選択をしたのかまでは分かりませんが、もしかすると彼女のご家族の職業柄で他国の文化に理解があったことも要因としてあるかもしれません。イスラム教徒と聞くと教義に厳格であるという一方的なイメージを持っていた私は、イスラム教の女性であれば必ずヒジャブを着けるものだと思い込んでいました。しかし、この女子生徒と出会ったことで、「宗教をどのように実践するかは人それぞれなのだ」と実感しました。

ヒジャブの他にもイスラム教には、1日5回のお祈り、断食、豚肉を食べないなど、日本の一般的な暮らしとは異なる生活の決まりがあります。これらについても家庭や個人、出身地域によってどのように行うかは異なるでしょう。イスラム教が身近ではない人からすると、さまざまな決まりが重く課せられている印象を受けるかもしれませんが、案外子どもたちも楽しんだり、時に心の拠り所としたりと柔軟に実践しているものです。学校を子どもたちの居場所とするためにも、ぜひ宗教についても個々の状況を理解していただけたらと思います。



**Q2-3** いじめを受けていると言って学校に行きたがらない場合、どのような対応をすればよいですか。

**A** 帰国・外国人児童生徒などがいじめを受けていると言っている場合にも、他の児童生徒への対応と同様に、各学校のいじめ防止基本方針に基づき、迅速に対応する必要があります。

とりわけ、帰国・外国人児童生徒にかかわっては、全校及び保護者や地域と連携して取り組む体制を整えるとともに、いじめられている児童生徒が自尊感情をもつことができる取組や、いじめる児童生徒の帰国・外国人児童生徒への見方や考え方を考えるための取組を進める必要があります。

**児童生徒理解や全体で支援する体制整備に努めましょう。**

- ・ いじめの実態やその対策について、早急に学校いじめ対策組織で話し合い、組織的に対応する体制をつくる。また、地域やPTAと連携して取組を進める。
- ・ 帰国・外国人児童生徒に関わる教師がその児童生徒の国に興味・関心をもち、学級・学年の中で帰国・外国人児童生徒が自尊感情をもち、これまで生活してきた国の文化を誇りに思えるような取組を行う。
- ・ 帰国・外国人児童生徒を取り巻く児童生徒の外国や異文化に対する見方や感じ方、考え方を変えていく取組を行う。



国や文化によって「いじめ」の解釈が異なる可能性もあるため、「いじめ」の有無の前に、実際にどのようなことが起きていたのかを客観的に調査し、それを保護者に明確に伝えるところから始めましょう。

ただし、国によって身体接触の受け取り方には差があります。日本では問題ないとされる程度の「ふざけあい」や励ますつもりで肩をたたく行為が、異なる文化では極めて失礼なことや許されないことになることもあります。

なお、言語の違いのみならず、文化や習慣の違いにより相手を傷つけた場合には、文化の違いにより相手が嫌な思いをする可能性を説明した上で、多様性を認め、互いを理解し、尊重し合えるよう指導したいものです。

**Q2-4 給食が食べられない時は、どのような対応をすればよいですか。**

**A** 帰国・外国人児童生徒の中には、宗教上の理由で食べられるものに制限があるなど、学校給食が食べられない場合や、文化の違いによって食事のマナーが異なったりすることもあります。そのため、児童生徒の状況を把握し、保護者との連携の下、適切に対応する必要があります。

子どもと保護者に伝わりやすい工夫をしましょう。

- 毎月の献立表をチェックし、食べられないものにチェックを入れることができるプリントを家庭用と学級用に作る。
- 家庭用は本人に渡し、保護者にチェックしてもらう。
- 教室用は、本人にも給食当番にもわかる場所に掲示する。
- 周りの児童生徒に、文化や習慣の違いを正しく理解できるよう説明する。



### Q2-5 水泳の授業や日曜日の登校などで配慮することは何ですか。

**A** 帰国・外国人児童生徒の多様性の背景は、生活していた国や宗教の違いなどによるところが大きく、この多様性を尊重することが重要です。国によって学習する教科やその内容、行事等が大きく違う場合があります。

水泳や運動会など母国にはなかった行事に参加したり、土・日曜日に登校したりできるよう、保護者が十分に理解できるまで説明しましょう。

#### 保護者の理解が十分でないため、学校行事に参加しない場合は…

- ・行事の趣旨や日程、必要なものなどについて、実物や過去の映像なども見せながら再度丁寧に説明する。
- ・保護者が、教育課程について疑問に感じていることに対して改めて説明し、理解を促す。



#### それまで生活していた国では行っていなかったため、水泳の参加に躊躇している場合は…

- ・水泳に不安を感じている児童生徒については、クラスみんなが楽しそうに水遊びをしている様子を見学させるなどして、水に対する抵抗感をなくしていく。
- ・必要な用具について、保護者に実物を見せて説明する。
- ・経済状況が厳しいことも考えられるため、教職員や保護者に呼びかけて用具を準備する。
- ・宗教上の理由で肌を露出することができない帰国・外国人児童生徒については、服装等について柔軟に対応する。

